

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300094		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター堀		
所在地	大阪府貝塚市堀1丁目2番6号		
自己評価作成日	平成25年2月11日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの生活の中でお客様に役割を持っていただき、楽しみながら毎日行えるように努力しています。お客様が少しでも多くの笑顔が見られるように、職員も笑顔で挨拶、笑顔でケアを行うように心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2791300094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2791300094-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年3月8日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設一年を過ぎた新しいホームで、利用者はホーム内をゆったりと使い、思い思いに過ごされています。開設当初から地域の受け入れが良く、近隣へ毎日散歩や買い物に出掛け、挨拶を交わしたり、老人会の外出行事に招待を受け参加するなど、地域交流が進められています。職員は目標として掲げている「笑顔で挨拶」を実践し、利用者との良好なコミュニケーションと信頼関係が育まれ、尊厳を大切に一人ひとりの役割作りや排泄の自立支援に力を注いでいます。また家族からの要望を聞いて迅速に対応し改善するなど、サービス向上に努めています。運営推進会議では市職員や地域包括支援センターが積極的にに関わり、ホームの運営について提案や協力が得られ、関係機関と連携を取りながらホームの充実と今後の発展に向けチームワークを固め取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に社是と経営理念を全員で唱和し実践につなげるよう心がけている。	法人の理念に加え、ホームの指針として「笑顔で挨拶」を掲げ、会議や申し送りで伝え周知しています。利用者への声かけや関わり、地域への挨拶時にも笑顔を大切に、意識して実践に努め、利用者とのコミュニケーションや地域交流に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近郊のスーパーに天気の良い日はお客さまと一緒に食材の買物に行くようにしています。ホームの近くにある地蔵さんまで散歩に行っています。	開設時より自治会に入会し、老人会の行事や防災訓練等の連絡をもらっています。買い物は利用者と徒歩で出かけ、近隣の方に職員が声かけて園芸のアドバイスをもらったりしています。ホームで行う行事の案内を掲示板に貼ったり、合唱会の案内を配布し、交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の散歩にでかける事で支援の方法などを地域住民の方に理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ず当ホームにて開催しています。市の担当者や民生委員、家族等の参加のもと、活動状況を報告し、意見や要望をお聞きしたり、ホームでの問題点を話し合ったりしています。	会議には、家族、看護師、地域包括支援センター職員、市介護課課長補佐等の参加を得て2ヶ月に一回開催しています。ホームの活動や状況報告を行い、参加者からは感染症についての注意事項や行事内容の提案、質疑応答などそれぞれの分野での情報を得られる機会となり、運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。12月より貝塚市課介護保険事業者連絡会が立ち上がり、相談、研修、連絡会などを行えるようになりました。	運営推進会議に市の担当者が積極的に参加し、日頃から管理者が相談や報告などを速やかに行い、密に連絡を取り合っています。市主催の連絡会では様々なアドバイスをもらい、研修等にも参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全体会議等で研修を行っており正しく理解した上でサービスにとり組んでいる。玄関の鍵については、夜間以外は常に開いています。	毎月のホーム会議や、新任研修で身体拘束について話しています。「座って下さい」などの日常何気ない言葉を取り上げ、拘束にならないかと問いかけ、その方の心情を理解し、行動抑制に繋がらないよう促しています。日中は玄関、フロア共に開錠し、フロアは音センサーを設置して安全面に配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての法人の理念が書かれたポスターをホーム内に貼っており研修も行っている。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議や勉強会にて、制度を理解する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書に沿って、相手が納得されるまで、わかりやすく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として「顧客満足度調査」をおこなったり、管理者を苦情等の窓口として、常に話しやすい環境作りを心がけている。頂いた意見等については、改善に向けての話し合いをしている。	日常的に家族の面会が多くあり、職員から状況を伝えながらコミュニケーションを取り意向や希望を伝えてもらうよう配慮しています。アンケート等で庭の園芸や職員紹介についての提案があり、速やかに対応するなど、出された要望には早い段階で改善できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と常にコミュニケーションを図り毎月の会議等で意見交換を行っている。	管理者は職員からの提案や相談、質問等あれば、何でも聞くようにしています。内容により意見を運営に反映したり、本社にも上げて説明しています。場合によってはリーダーを介して話してもらい、意向を出しやすい体制を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にはキャリアアップ制度を設けており、資格手当でもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の段階により研修制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに必ずアセスメントを行っている。ホームの見学等もしていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学をして頂いたり、センター方式を活用し、家族さまからご本人さまの生活状況や家族さまの要望などの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会を必ず行っている。場合によっては他のサービスや事業所を紹介することも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買物や、掃除洗濯、料理等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様とも信頼関係を築く努力をしている。利用者が家族様と過ごす時間を大切に考え支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様とも相談しながら、入居前に馴染みされていた場所や知り合いの方との交流を支援している。	利用者の友人や親戚、孫の訪問があり、お茶を出して部屋でゆっくり話してもらっています。入居前に通っていた地蔵参りや神社参拝、近所への買い物などホームで可能な範囲で付き添い、昔の習慣や付き合いを大切に継続できるよう支援しています。法事や帰宅などは家族につなげ、連絡を取り日程の調整や準備を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が楽しくなるように、リビングでの座る席の配置を考えたり、共通の話題を考えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に全ての利用者、家族様にいつでも相談に応じることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及び家族様からなるべく沢山の情報をお聞きしてケアに生かせるように努力している。	入居時に本人や家族から生活歴や好み、生活の希望等を聴きアセスメント用紙に記載し、その後の様子で気付いた情報を加筆しています。また日頃の関わりの中で思いに繋がる事項は申し送り時に伝え、日誌や支援経過に記録し、共有しています。意向の表明が難しい利用者には、表情や様子を見るなど、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時のケアマネジャーさんなどから本人の了解の上、情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で情報交換を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成前に、必ずカンファレンス、モニタリングを行っており、家族様にも説明をし、納得の上サインを頂いている。	意見と本人や家族の希望を基に、アセスメント用紙や職員からの報告を受け、介護計画を作成しています。日々の日誌にも計画を反映させ、3ヶ月ごとにカンファレンスを開き、モニタリングと見直しを行っています。計画には主治医や薬剤師の指導も加味し、関係者と連携しながら計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表、個別の介護記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応している。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんや町会長さん、老人会さんに協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の連携のとれたかかりつけ医がおり適切な医療を受けられようように支援している。	以前のかかりつけ医の継続は可能ですが、現在は希望により全員協力医の受診となっています。協力医は24時間対応で月2回往診があり、受診健康管理記録でホームと情報交換しています。また希望者には月一回歯科の往診を受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院関係者及び主治医、家族様と連絡を取り、退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合について書類を交わしており説明をしている。	重度化についての指針があり、入居時に説明しています。ホームとして、医療行為に至るまでは、希望によりできる限りホームで対応したいと考えています。現状では対象者はいませんが、家族に状態を伝え、重度化した場合はその都度希望を聞くように考えています。	重度化についての将来的に起こり得る事例に柔軟に対応できるよう研修等も取り入れ、職員の意識とホームの方針の共有を図られてはいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル・事故発生時マニュアル等で研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下年2回の消防訓練を行っている。運営推進会議でも議題に取り上げて、地域との連携に働きかけている。	消防署の指導の下と自主訓練を年に一回ずつ行い、消防署には通報訓練、利用者の誘導、消火器の使用法等を指導してもらっています。地域の方の参加や連携は二年目の次回より進めていく意向ですが、地域の防災訓練の情報も得られ、運営推進会議などで共に話し合う機会が設けられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持を心がけ、プライバシーが守られるように配慮したケアを行っている。	常に高齢者の尊厳を大切にしたり関わりを意識し、入室時のノック、敬語での話しかけを心がけています。特に排泄介助時は十分に配慮し、小声での誘導や見守る際もカーテンの外で待つようにしています。管理者は気になる対応があれば申し送りで伝え、気付きや注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の希望や意見を聞いたり、思いを引き出せるような声かけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出きる限り利用者のペースを大切にしているが、充分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、好きな服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすいように工夫をしています。準備や片付けは出きるところは行っています。	調理担当の職員が利用者の好みを取り入れながら献立を立て、利用者と一緒に買い物に出かけています。米とぎ、皮むき、テーブル拭きなど利用者のできること、得意なことに携わってもらっています。時には出前や寿司作り、バーベキューなど雰囲気を変えて食事を楽しめるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は介護記録に個別に記載している。食事量、水分摂取が少ないときは食事の間にプリンや牛乳など好みの飲み物を聞いて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に対応している。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に対応している。定期的にはトイレでの排泄をおこない、排泄リズムを整えるように行っている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄記録を見ながら個々のタイミングにあわせてトイレ誘導を行っています。トイレの場所を分かりやすく知らせたり、尿意のサインや様子を見逃さず早めに対応することで、日中布パンツで過ごされるようになったり、職員の前向きな支援で介護度の高い方も失敗がなくなってきているという成果が得られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食品、乳製品などを取り入れている。運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし個々にあった支援をおこなっている。	入浴は午前から夕方4時ごろまでで、利用者の希望を聞いて少なくとも週2～3回は入ってもらっています。好みの石鹸を使用したり、温度調節を行い、拒否傾向の方には時間や職員を変えて声かけし、無理なく心地よく入ってもらえるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特にきめず、状況に応じた支援を行っている。個別に昼寝の時間も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬局と連携を取りながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	戸締り係り、水遣り係りなどの役割を持ってもらっている。誕生日会、毎月の行事の企画を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、買物などは支援している。老人会のイベントウオーキング大会時は近隣の神社まで出かけた。本人の希望の普段行けないような場所まで支援できていない。	日常的に地域へ散歩や買い物に出かけています。玄関や庭先の園芸を見たり、広い裏庭でベンチに座って日光浴をしたり、バーベキューをして楽しんでいます。春には家族も参加の花見遠足を予定しています。	



ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整理整頓が常にできているように心がけている。空調温度もこまめに調整をしている。毎月季節にあった飾りつけをしている。	新しい木の匂いがし、清潔で掃除が行き届いています。玄関に飾りものや椅子が置かれ、フロアには季節の飾りがなされています。トイレや浴室にわかり易い絵の張り紙をしたり、加湿器、エアコンの調節や換気を行い快適な空間作りには配慮しています。空室の二階リビングも開放し喫茶風に寛げるスペースとして設え、ゆったりと生活できるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで座る位置については常に状況を考えながら変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべくご本人が馴染みの筆筒や布団などを持ち込んでいただくようにしています。	それぞれの居室の入り口には職員手作りのフェルトであしらった表札が掛けられています。クローゼット以外の家具等はすべて持ち込みで、入居時に家族と相談しながら本人の馴染みのものを揃えてもらっています。鏡台、筆筒、仏壇等が置かれ、人形やアルバムなど思い入れのある大切な品をそれぞれ身近に置き、安心して過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に名前を張ったり、トイレも直ぐわかるように表示している。		